

校内の塙にペンキで絵を描く川田和子准校長(手前)ら。高槻市富田町の府立高槻支援学校で



障書の有無を超え、校舎の壁に絵を描こう――。高槻市富田町の府立高槻支援学校(国津賢三校長)でこんな計画が進んでいる。子どもたちが描いた絵を組み合わせ、壁面を作る。参加者はみんなが共生できる地域づくりのシンボルになってほしいと願っている。発案者は、長年美術教諭をしていた川田和子准校長(54)。昨春、窓のない北側の作業棟

校舎に壁画計画

高槻支援学校

障害の有無超え進行中

した中学部棟の西面(縦9・1メートル、横13メートル)の3カ所。在校生だけでなく、周辺の中学校や高校からも原画を募集し、141点が集まった。この中から、壁画家の林伸光さん(52)とデザイナーの上まりこさん(50)が55点を選び、組み合わせて壁画をデザインした。

ペイント作業は、今月上旬にスタート。教員の有志や京都市立芸術大の学生らが作業を進め、年度内に3カ所すべてが完成する。これに続いて来年度は、在校生や地域住民の手で、校舎を取り囲む塙や校内の滑り台型の遊具に絵を描いてもらう計画だ。

高槻支援学校は、JR東海道線のすぐ南側にある。川田准校長は「電車から見た人たちに『ここで子どもたちが楽しく勉強しているんだな』と知ってもらいたい」と話している。

〔大久保 厚〕

共生のシンボルに

を眺めていると、真っ白な壁が大きなキャンバスに見えてきた。「ここにすてきな絵があれば、学校に親しみがわくのでは」。府教委に提案、経費の約480万円を支援してもらえることになった。

壁画が描かれる校舎は、作業棟の東面(縦12・4メートル、横11・4メートル)と北面(縦12・4メートル、横55メートル)、正門を入って左側にある南棟の東面(縦14メートル、横11・8メートル)、グラウンドに面



JR東海道線沿いにある作業棟の壁画のイメージ図
—高槻支援学校提供